

# フランス語形容詞に関する一考察

谷 口 千賀子

## 0. はじめに

フランス語では一般に、形容詞が名詞を修飾し、副詞が動詞を修飾するという対応関係が成立している：*la conduite prudente* vs. *conduire prudemment*。また、形容詞によっては、そのまま副詞として機能するように見える場合が観察される。このような形容詞と副詞との機能的特性のために、さらに、*-ment* の副詞や *d'une manière adj.* などの副詞的表現が一般に形容詞の女性形から作られる<sup>(1)</sup>という形態的特性のために、形容詞と副詞の関係はしばしば考察の対象となってきた。

しかし、形容詞の副詞的用法や形容詞から副詞への派生の例を見ると、必ずしもすべての形容詞について副詞的用法・派生が見られるわけではないようである。副詞の中でも *-ment* の副詞の形態の根底には対応する形容詞の存在が認められ、*d'une manière adj.* の形態にも形容詞の存在が必要不可欠であるが、すべての形容詞がこれらの副詞的表現の源となるわけではなく、形容詞にはさまざまな性質のものがあることを考慮しなければならない。

本稿では、まず形容詞と副詞の関係を機能的側面、形態的側面から考察し(1章)、形容詞と副詞とが必ずしも完全に対応関係にあるのではないことを示したい。次に、フランス語の形容詞がこれまでの研究でどのように捉えられてきたかを概観し(2章)、その後我々による形容詞の捉え方の枠組を提示してみたい(3章)。

## 1. 形容詞と副詞の関連性

### 1-1. 形容詞と副詞の機能的類似性

機能的側面から見ると、形容詞は名詞を修飾するだけではなく、副詞的役割を果たすように見えることもある。

1) Paul est parti *joyeusement*.

Paul est parti *joyeux*. (Guimier, 1996 : 65)

2) Il parle *brièvement*.

Il parle *bref*. (Guimier, 1996 : 68)

1) のタイプの形容詞は Guimier (1996) や Le Goffic (1993) において *attribut accessoire* と呼ばれるものであり、形容詞は文の主語と性数の一致を行う。これに対して 2) のタイプの形容詞は Guimier (1996) では *adjectif invarié*, Le Goffic (1993) では *attribut accessoire de l'idée verbale* と呼ばれるものであり、不変である。いずれの場合も形容詞の副詞的用法は副詞とは必ずしも等価ではない。1) では *joyeusement* が動詞によって表される事行の様態と主語“Paul”の外見的要素を表すのに対して、*joyeux* は直接“Paul”にかかり“Paul”の内面的状態を表しており (Guimier, 1996 : 65), 2) では *brièvement* が事行全体の時間的長さに言及しているのに対して、*bref* は動詞から想起することができ潜在的に存在する名詞（ここではせりふの一つ一つ、文の一つ一つ）を修飾していると捉えることができるという (Guimier, 1996 : 68)。つまり 2 例とも形容詞は文中の、あるいは文脈から想起される名詞にかかり、間接的に動詞によって表される事行をも修飾していると言える。さらに Guimier (1996) によれば、1) のタイプの形容詞は文の主語の性質をあらわすものに限られるようである (p. 66)。

Noailly (1999) でも同様の現象が論じられているが、それによると形容詞が副詞的に用いられていると考えられるのは、

## 1. 主語の属性をあらわす場合

3) *Blaise part tranquille*. (Noailly, 1999: 116)

2. 形容詞から派生する *-ment* の副詞が存在しない場合、または *-ment* の副詞が存在してもそれが「様態の副詞」として機能しない場合

4) *Vous écrivez compliqué (\*compliquéement)*, vous, Georges Benjamin?

5) *L'acteur ne doit pas se contenter de jouer sincèrement, il doit jouer vrai (\*vraiment)*. (Noailly, 1999: 148)

3. *-ment* の副詞は存在するが、動詞によって表される行為そのもの、あるいは行為の結果にかかる場合

6) *Voter utile (=faire un vote utile)*

*Voter utilement (=faire quelque chose d'utile en votant)*  
(Noailly, 1999: 149)

であるという。2 の場合を除いて、どれも上で見た Guimier らの例と同様に、形容詞は文中の、あるいは文脈から想起することのできるなんらかの名詞を修飾しているという点では共通しており、形容詞本来の名詞を修飾するという機能から逸脱するものではない。

Le Goffic (1993) は、これらの形容詞は動詞の直後に置かれると指摘している (§261) が、この位置は様態の副詞 (*adverbes de manière*) の置かれやすい位置でもあり、形容詞と副詞とが統辞的に同位置に置かれうること、さらに意味の面から形容詞の使用が文脈や文の構成要素と矛盾しないことが形容詞の副詞的用法を可能にしていると考えられる。

## 1-2. 形容詞と副詞の形態的関連性

次に形態的特徴から形容詞と副詞の関係を考えてみよう。一般に、*-ment* の副詞は対応する形容詞の女性形から作られる。しかしすべての形容詞が *-ment* の副詞を形成するわけではなく、Molinier (1992) によれば、副詞を形成することができるのは形容詞全体の 20% にすぎないということである

(Molinier, 1992: 67)。

また, *adverbes de manière* として機能する *-ment* の副詞の言い換え表現として, しばしば *d'une manière adj.* の形態が取り上げられるが,

7) Pierre a lu l'annonce *attentivement* / *d'une manière attentive* <sup>(2)</sup>.

(谷口, 1999: 104)

この場合にも, 谷口 (1997, 1999) で指摘したように, すべての *-ment* の副詞が *d'une manière adj.* に言い換え可能というわけではなく, 形容詞によっては *d'une manière adj.* の形態を取ることが不可能な場合が存在する <sup>(3)</sup>。

8) \*On comprend *d'une manière facile* pourquoi il en est ainsi. (谷口, 1999: 109)

9) \*Son voile, qui de son chapeau d'homme descendait *d'une manière oblique* sur ses hanches. (谷口, 1997: 89)

この2例はいずれも, *-ment* の副詞であればまったく問題ない。

8') On comprend *facilement* pourquoi il en est ainsi. (谷口, 1999: 109)

9') Son voile, qui de son chapeau d'homme descendait *obliquement* sur ses hanches. (Flaubert, in Guimier, 1996: 61)

さらに, 上でもすでに触れたように, すべての形容詞が *-ment* の副詞を形成するわけではなく, *-ment* の形態が存在しないために *d'une manière adj.* を用いる場合もある。

10) Elle danse *d'une manière charmante* / \**charmamment*. (谷口, 1997: 83)

このことから, *-ment* の副詞も *d'une manière adj.* もその形成過程の根底に形容詞の存在を認めることのできる形態ではあるが, すべての形容詞がこれらの形態を取りうるわけではなく, 形容詞のタイプによっては副詞が派生しないもの, 副詞が派生しうる場合にも *-ment* の副詞と *d'une manière adj.* のどちらか一方の形態しか取ることのできないもののあることがわかる。

このように, 形容詞から副詞・副詞的表現への形態変化の関係を見ると, 一

様に形容詞とは言っても、形容詞にはさまざまな性質のものがあ、形容詞の性質によっては副詞の派生が可能なもの、不可能なもののあることが想像できるだろう。そもそも形容詞とはどのようなものなのであろうか。

## 2. これまでの研究

Picabia (1978) は、その結論部分において、形容詞は否定的な定義でしか捉えられないと述べている：

《S'il est assez facile de donner la définition d'un verbe (...), il n'en est pas de même pour les adjectifs et l'on ne peut donner que des définitions négatives : un adjectif n'est pas un verbe (...), ce n'est pas une forme participale ni un substantif.》(p. 146)

その一方で、Goes (1999) も指摘しているように、「形容詞」と聞けばフランス語話者の誰もがすぐに *petit, grand, rouge, bleu* などを思い浮かべるだろう。形容詞とはいったいどのような特性を持つものなのか。この章ではこれまでの研究の中でフランス語形容詞がどのように捉えられてきたかを、形態・統辞・機能・意味の面から概観したい。

Noailly (1999) によれば、形容詞とは、修飾する名詞と性・数の一致を起こすもののことである<sup>(4)</sup>。つまり、「いわゆる形容詞」(*petit, grand, rouge, bleu* など)と限定辞(冠詞、数詞、指示形容詞、所有形容詞、不定形容詞、疑問形容詞など)が含まれる。ただし、限定辞が名詞の現動化に必要な不可欠な要素であるのたいて、*「いわゆる形容詞」*は名詞の現動化にとって任意の存在であるという違いがある (Noailly, 1999: 9)。

形容詞はその統辞的・機能的特性から、大きく *adjectifs qualificatifs* (AQ) と *adjectifs relationnels*<sup>(5)</sup> (AR) に分けられ、さらに AQ は *adjectifs restrictifs* と *adjectifs descriptifs* に下位区分される。

ある形容詞が、属詞として機能しない (*la sécurité sociale* = *la sécurité de la société* → \**la sécurité est sociale*)、程度表現とは共起しない (\**la sécurité*

*très sociale*, \**la sécurité plus sociale*), 他の形容詞と並置できない(\**un voyage agréable et présidentiel*) という場合, その形容詞は AR とみなされる<sup>(6)</sup>。AR として機能する形容詞は名詞から派生したものであり, 名詞的な性質を強く保っている。

AQ の下位区分である *adjectifs restrictifs* と *adjectifs descriptifs* は名詞の *épithète* となる場合に後置される (*restriction*) か前置される (*description*) かという対立によって区別される<sup>(7)</sup>。*adjectifs restrictifs* は名詞によって表されるものを *identifier* する, または *sous-catégorisation* を形成する役割を担っている (*un ballon ovale*, *un manteau rouge*)。これに対して *adjectifs descriptifs* は名詞によって表されるものの内在的性質・話者の視点を示す (*un vieux tilleul*, *un extraordinaire tilleul*)。

形容詞の形態的な特徴は, 上でも見たように, 修飾する名詞と性・数の一致を行うことであるが, これには例外もあり (註(4)参照), 必ずしも形容詞の絶対的な特徴ではない。また, -*el* (*industriel*), -*ique* (*sympatique*), -*if* (*actif*) などの接尾辞や, *anti-* (*antisocial*), *super-* (*superfin*), *in-* (*incertain*) などの接頭辞の付く語が多いことも形容詞の形態的特徴の一つであるが, 同様の語形を持つ語が他の品詞にも見られたり (*l'hôtel*, *la musique*, *le tarif*, *l'antithèse*, *le supermarché*, *l'indifférence*), 接尾辞や接頭辞のない形容詞 (*grand*, *vert*, *jeune*, *mince* など) も多数あることから, このこともまた形容詞の決定的な形態的特徴とは言い難い。その他にも, 動詞の過去分詞形や現在分詞形が形容詞的に用いられる場合がある。

また, 形容詞を意味の点から捉え, *adjectifs relationnels*, *adjectifs de couleur*, *adjectifs évaluatifs*, *adjectifs appréciatifs* などと区別することがある。Goes (1999) では, *adjectifs primaires*<sup>(8)</sup>を意味の観点から, *adjectifs de dimension* (*grand*, *petit*, *haut*, *bas* など), *adjectifs de temps/âge* (*bref*, *vieux*, *jeune*, *ancien* など), *adjectifs d'appréciation* (*bon*, *mauvais*, *joli*, *cher* など), *adjectifs de couleur* (*blanc*, *noir*, *bleu*, *jaune* など), *adjectifs de propriété physique* (*chaud*, *froid*, *beau*, *laid* など), *adjectifs modaux* (*vrai*,

faux), adjectifs de disposition personnelle (fort, faible, brave, lâche など), adjectifs de vitesse (rapide, lent, leste など) の8つに分類している。しかし、形容詞の意味によるこれらの分類は、いずれも何の定義もなくされ、判断基準がはっきりしない。また、網羅的かどうかもわからない。

1章で扱った、形容詞と副詞・副詞的表現との関係から見た場合、上で述べた形容詞の特徴はいずれも、どのようなタイプの形容詞が単独で副詞的に用いられうるのか、どのようなタイプの形容詞が *-ment* の副詞や *d'une manière adj.* の形態を取りうるのか、を説明するのに不十分である。性・数の変化のあることはほぼすべての形容詞に当てはまる条件であるし、接尾辞や接頭辞が付く・付かないということも形容詞の本質的な特徴とは言えない。また、AQ なのか AR なのか, adjectifs restrictifs なのか adjectifs descriptifs なのかという形容詞の統辞的な特徴によって区分した場合も、例 8), 9), 8'), 9') のように同一の形容詞から異なる副詞的手段が派生する場合もあり、これもまた形容詞と副詞との関係を見るには不十分な分類である。さらに、形容詞の意味による分類によっても、一部の形容詞のみを対象とするだけでなく、すべての形容詞を視野に入れて考えなければならない。

### 3. 形容詞の体系

これまで見てきたように、形容詞はなんらかの名詞または名詞的なもの (N<sup>(9)</sup>) を修飾するというのがその本質である。しかし、たとえば *une grande maison* という場合と *une maison confortable* という場合とでは、*grand* が *maison* の外見的な性質を表しうるのに対して、*confortable* は *maison* の内的性質を表していると判断することができ、同じ *maison* を修飾しているにもかかわらず形容詞のタイプによって *maison* のいかなる側面を描写しようとしているのかが異なることになる。また、同じ *une grande maison* という場合にも *grand* は必ずしも *maison* の外見のみを描写しているわけではなく、文脈によっては「立派な」「一流の」といった内的性質を表す場合もある。従来

の研究のように形容詞のみに着目していたのでは、これらの例における形容詞の役割の違いは十分に説明することができない。このことから、形容詞が N のどのような側面にかかわって機能しているのかを考える必要があるだろう。

N について語る場合、発話者はさまざまな視点から N を描写することができる。大きく分けると、まず N の生起自体を問題とする視点、次に N の生起が前提となって、N の時・空間的、概念的 position 付けを行おうとする視点、N の外観の描写を行おうとする視点、N の内在的性質の描写を行おうとする視点などが挙げられるだろう。以下の分類は、発話者がどのような側面から N を捉えることができるかを示したものであり、上で挙げた *une grande maison* の例のように、形容詞の用いられる場面や文脈によって、同一の形容詞が外面的側面と内面的側面の両方を描写しうるのは、形容詞自体の意味によるものではなく、あくまでも話者の視点が異なるからに過ぎず、*grand* という形容詞が N の外面的側面も内面的側面も描写することのできるタイプの形容詞であるということである。

#### 1. N の存在自体を問う視点

N の生起の蓋然性：possible, certain, probable, vraisemblable

N の真偽：vrai, faux

#### 2. N の生起のし方を問う視点

現れかた：spontané, contingent, accidentel

頻度：fréquent, répétitif

#### 3. N の位置付けを行おうとする視点

時間的位置付け：ancien, actuel, futur

空間的位置付け：droit, gauche, céleste

枠組（分野・領域）：linguistique, aborigène, ethnique

#### 4. 他の N とのかかわりを示そうとする視点

同種または異種の N とのかかわり：pareil, autre, différent, premier, suivant



異種の N とのかかわり : *digne, dénué, social, cantonal*

5. N の外的性質を描写しようとする視点

五感によって捉えられるもの : *visible, assourdissant, puant, acide, mou, chaud, rouge, rapide*

形状 : *grand, petit, haut, bas, épais, long, rond, carré*

話者の主観的評価 : *beau, laid, joli*

6. N の内的性質を描写しようとする視点

心的状態 : *triste, heureux, joyeux*

話者の主観的評価 : *bon, bizarre, aimable, confortable*

外部に影響を与えるもの : *attirant, irritant, angoissant*

外的要因によって引き起こされるもの : *indiqué, honoré, fait*

7. N の量・程度を示そうとする視点 : *incalculable, énorme, nombreux*

形容詞はあくまでも N との関係において観察されなければならない。同じ形容詞を用いる場合でも、修飾する N によってはその役割の異なることがある。たとえば、*une grande maison* と *une grande vitesse* という場合では、前者の *grand* が N の外的性質を表しうののに対して、後者の *grand* は N の程度を表していると考えられる。形容詞のみを対象として分類するのではなく、形容詞が N のどのような側面を捉えようとしているのかによってその機能領域を見るわけである。

#### 4. ま と め

*-ment* の副詞や *d'une manière adj.* のような副詞的表現の根底には形容詞の存在があるが、必ずしもすべての形容詞がこれらの副詞的表現の根底をなしているわけではなく、形容詞のタイプによっては副詞表現と対応させて考えることのできないものがある。

これまで形容詞はその統辞的・形態的・意味的側面からのみ捉えられがちで

あったが、いずれの捉え方も形容詞のタイプを探る上では不十分である。形容詞は名詞を修飾するのが本質的な役割である。本稿では、発話者が名詞によって表される指示対象をどのような側面から捉えているかという点に着目して、形容詞の機能領域の分類を試みた。たとえば *une grande maison* と *une maison confortable* の例のように同一物を描写する場合にも話者の視点の違いが見られる。また、*une grande maison* と *une grande vitesse* における形容詞 *grand* の例のように、同じ形容詞でも修飾する名詞のタイプによってその機能領域を変化させることがあり、必ずしも一つの形容詞がある一つの領域のみをカバーするものではない。

形容詞と副詞の関係から見た場合、両者は必ずしも対応関係にあるわけではないというのが今回の考察の出発点であった。たとえば、筆者の観察によると、N の生起自体を問う視点を示すことに用いられる形容詞の中でも、蓋然性の高いことを表すタイプの形容詞からしか *-ment* の副詞は作られないようである。

個々の事例を観察する事によって、さらに今回の形容詞の機能領域の分類は細分化されることになろう。形容詞から副詞表現への派生関係を考えることも含めて今後の課題としたい。

#### 註

- (1) *nuitamment, bougrement, diablement, vachement* など、名詞から派生する *-ment* の副詞も存在する (cf. Moignet (1963: 181))。
- (2) ただし、*-ment* の副詞と *d'une manière adj.* が必ずしも等価ではないことは谷口 (1999) を参照。
- (3) Nique (1974) は、すべての形容詞が *d'une manière adj.* の形態を取りうると述べている (p. 44) が、我々の観察によればこの指摘は誤りである。
- (4) ただし、形容詞によっては性の対立のないもの (*marron, jeune, possible* など) や、数の対立のないもの (*japonais, gros, heureux* など)、性・数ともに変化のないもの (*bleu-vert* のような複合形容詞) があり、性・数の変化のあることが形容詞の決定的な特徴とは言えない。
- (5) 先行研究の中では *pseudo-adjectifs* と呼ばれている (cf. Noailly (1999), Goes (1999))。

- (6) Goes (1999) で指摘されているように、同一の形容詞が AR にも AQ にもなりうる。

Les traditions (\*très) populaires du Vietnam. (=AR)

Ce sont des traditions (très) populaires. (=AQ) (Goes, 1999 : 253)

- (7) gros, grand, petit などのように、語源的に古く、音が短くかつ頻度の高い形容詞は前置が基本の位置であるが、前置されても *restrictif* な価値を持つ場合がある。しかし、これらの形容詞も後置することが不可能なわけではない。

Je veux un ballon *gros*, pas *petit*. (cf. Noailly, 1999 : 99)

- (8) 語源的に古く、1~2 音節で、使用頻度の高いものという定義。bas, blanc, bon, bref, chaud, court, creux, droit, étroit などが挙げられる (cf. Goes, 1999 : 48)。
- (9) より厳密に言えば、N という記号によって表される指示対象。

#### 参考文献

- GOES, J. (1999) : *L'adjectif. Entre nom et verbe*, Champs linguistique, Paris-Bruxelles, Duculot.
- GUIMIER, C. (1996) : *Les adverbes du français: le cas des adverbes en -ment*, Collection l'essentiel français, Paris, Ophrys.
- LE GOFFIC, P. (1993) : *Grammaire de la phrase française*, Paris, Hachette.
- MOIGNET, G. (1963) : "L'incidence de l'adverbe et l'adverbialisation des adjectifs", *Travaux de Linguistique et de Littérature*, 1, pp. 175-194.
- MOLINIER, Ch. (1992) : "Sur la productivité adverbiale des adjectifs", *Langue Française*, 96, pp. 65-73.
- NIQUE, Ch. (1974) : *Initiation méthodique à la grammaire générative*, Paris, Librairie Armand Colin.
- NOAILLY, M. (1999) : *L'adjectif en français*, Collection l'essentiel français, Paris, Ophrys.
- PICABIA, L. (1978) : *Les constructions adjectivales en français. Syntaxe transformationnelle*, Genève, Droz.
- 谷口千賀子 (1997) : 「*d'une manière adj.* の使用上の制約について」, 『年報・フランス研究』, 31, 関西学院大学フランス学会, pp. 81-92.
- 谷口千賀子 (1999) : 「*-ment* の副詞と *d'une manière adj.* の機能領域」, 『年報・フランス研究』, 33, 関西学院大学フランス学会, pp. 99-111.